



## 白いたそがれ

清水 重男  
(千葉)

ゆきあいの風の冷たき夕まぐれ空ゆく雲の影につまずく

夕ぐれはいつも駆け足冬天の白なる空に咲く黄水仙

陽のひかり月のひかりに影は棲みわれもひと世の影を曳きたり

カーテンのすき間からくる今日として白いひかりを感じる朝<sup>あした</sup>

あてもなく旅に出たいとつぶやいた波打ちぎわの白い貝がら

親鳥に抱かれるひなのようにしてひと色違う虹を見ており

散り急ぐさくら花びら拾う手に守れるものはとても少ない

白い月白い水仙白い風わたしの中の白いたそがれ

飛び散ったかけらは元へは戻らない雨つぶひとつ手のひらに受く

夕やけの生まれるところ見ておりぬモーツアルトほどの才はなくとも

人知れず鳥の死のこと思いおり巷に雨の降りつづく時

目つむれば藍ひと色の夜は流れ防人の歌思っていたり

人のこころに届くものとしてもう少し今日は夕陽を眺めていたい

海図なき船のごときかこの世とは鋭く照らせセントエルモの火

陽のひかり消えゆく時を黄金のマスクに覆うツタンカーメン

### このごろの私

去年十二月から健康麻雀のクラブに入った。飲まない、賭けない、吸わないがモットー。若い頃やっていたので初めてではない。女性も数人いて、にぎやかだ。毎週月曜日が楽しみになっている。



## 父の納戸

青木 淳子  
(鳥取)

このごろの私  
十年前から夫婦でサッカー  
J3「ガイナーレ鳥取」を応援している。アウェー戦は観光をかねて観戦に行くのが楽しみのひとつ。今年こそJ2昇格を願い、日程片手にどこへ行くこうかと思索中である。

卵もつ腹をさらせる赤かれひ手からぬるりとト口箱に落つ

包丁の切れの悪さをかちつつつかれひを捌く大歳の夜

「子まぶり」は父の好物食べるとび賀露の港の海鳴りを呼ぶ

ミカン箱積みて自転車を引く老いに父の面差し探す年の瀬

祖父の代に栄えし店の名残りなる在庫の柳行李がにほふ

遺されし靴を並べてみがきをり足音たかく父もどり来む

納戸にて見つけしメンコ孫たちは昭和の遊びに目を輝かす

亡き父のメンコがびゆんと空を切りへねずみ小僧を裏返したり

好奇心が父を生かしき母死して八年間の虚を埋めて

うきうきと父は並びきスーパーでべつぴんのゐるレジを選びて

補聴器を忘れし父を追ひかけて呼べどわが声空に散りゆく

肥後守で鉛筆けづりし父おもひさくさく牛蒡のささがき作る

父が逝き外しし手摺の螺子の跡三和土に始まり納戸へつづく

暑き日に西瓜を買ひて転びしと父の亡きあと人より聞きぬ

ヒヨドリもツグミも早く食べに来よ雪降らぬ庭の南天の実を